

2019 年度テーマ いい人生だったと思えるように

代表を受けて 柴田由紀子

『人生で無駄なことはいです。別の道を歩いても、それも無駄ではないですよ。ただ、人から信頼されることの重さ、信頼にこたえなかったことの重さ。どちらを取りますか？自分の人生、自分で選ぶことが大切です』と助言をくださった先輩。

この助言を頂き、代表を受けることへの答えが出るには、それほど時間がかかりませんでした。

信頼して頂けたことがどれだけ大きなことか、有難いことか、とにかくできるかどうかは別として動きだしてみようかと思いました。

不安ばかりですが、みなさんに支えてもらいながら変わらない同じ思いで「ホスピスケアとは？」と考えながら、ゆっくりゆるゆる歩めたらと思いますので、これからもよろしく願います。

次年度計画案と試食

1 月 20 日（土）13:30～16:00 岡崎福祉会館 301 号室

①次年度どのようなことが勉強したいか

- ・愛知病院が市民病院に移行しどう変わるのか ・緩和ケア病棟は ・保健衛生大学病院との関連。
- ・「認知症にならないため」の勉強会
- ・根本はホスピスケアとは何かを追及する勉強会でやりたい
- ・「死」を語ろうⅢ

②摂食回復支援食を試食して

- ・介護食の試食 とても良い企画だったと思いました。こんな機会でなければ多くのメニューを試食できなかったと思います。
- ・病人食は大変きれいでやわらかく食べやすかったのでこれから活用したいと思います。皆さんのお話とても参考になりいろんな人生の体験をされ、苦しいこと悲しいことを乗り越えつつ、今ここに参加していることに驚きと尊敬の念を持ちました。
- ・会の雰囲気がとても暖かくみなさんで力を合わせ心を合わせて会を運営し継続してみえる姿に感動致しました。
- ・すごいタイミングで義母の今後の相談にのっていただきました。生きて行くことの原点は食だと思っております。最後まで人間らしく生きていたいと願っております。
- ・毎回皆さんのお話を伺って元気を頂けてありがたいです。今までの介護食と違いそのままだが食べられビックリです。主人の母（94 歳）に届けようと思いました。
- ・嚥下の難しい人もおいしく食べられるので教えてあげたいと思いました。人にやさしく出来る事はとても嬉しくおもいました。
- ・実父母が 60 歳半ばで亡くなっていますので、若い時からデーゲン先生の講演や曾野綾子の戒老録など興味を持っていました。今年 60 歳を迎える事、又義母が 98 歳を越え在宅介護です。そして主人、私もこれからの生き方の指針を皆さまから伺って本当に一日一日の生き方が問われる今後の日々と心しました。
- ・嚥下がむづかしくなった時、体調の悪い時などおいしいと思える物が食べられる事がわかり試食して良かったです。

- ・入院中の母に舌でくずせる良い介護食も食べられて心が軽くなりました。興味のある介護食の試食という事で参加させて頂きました。介護食は、色・形・味と共に満点と思えました。遠からず使用する時が来るでしょうから大変役に立ちました。このような機会を与えていただいた事に感謝です。それと会員の方々のいろいろな体験、思いなどを伺う事ができ、皆さんの深い思いお考えに共感する事ができとても有意義なひとときでした。
- ・美味なお食事をいただき嚥下が難しくなっても安心ですね。けれども 80 歳で自歯 20 本以上を努力することは必要だと感じました。
- ・「あいーと」の介護食をごちそうになりビックリです。こういう物が多くなれば在宅ももっと進むのではないかと思います。少し将来も明るくなったように感じました。
- ・どの料理も大変美味しかったです。ハンバーグ、魚の煮つけ ブロッコリーの煮物、ただ蒸しただけなのでしょうか？調理している所を見たい気分一杯です、岩手はちょっと遠いんですね。市のお弁当を取った事があるのですがそこも柔らかかったです。近くのお弁当屋さんでも病人食のような物の調理を見学するのも一案だと思われませんが・・・。
- ・支援食すばらしい！もっと安価で購入できるように、又介護施設でも使えるようになれば楽しい終末が過ごせるようになると思います。多くの方々に話し使う方が増えれば少しは安価になるのではと思い話しますね。
- ・会員みんながそれほど親しくないはずなのに、ここ来ると安心して素直に正直に話すことができる。どうしてなのかなといつも思います。
- ・未来はどのくらい先？この食事会を考え実行できたのはまだまだ先があるのだなあ実感。全てに感謝。誰かのために生きる、誰かのために私は生かされている。
- ・いつもお世話になり今回の企画自分もやがては・・・とても手間なしの介護食で手軽で大変美味しく頂きました。身近な人がいたら紹介したいと思います。食育でこの調理法を勉強したく思います。出来る限りこの勉強会に出席したいと思います。

2019 年度総会

3 月 28 日（土曜日）10:00～13:00 岡崎福祉会館 3 階 302

今年度報告・会計報告・次年度計画の報告後、20 年の節目に代表が橋詰清子さんから柴田由紀子さんに交代するという報告など、議案全てを承認いただきました。

その後岡崎市立愛知病院緩和ケア部長の橋本淳先生をお迎えし、皆さんと交流会を行いました。参加者全員が橋本先生に質問し、先生はその質問に一人一人に丁寧に応えてくださいました。「入院してみえる患者さんと心が繋がったと思う時に喜びを感じられる。」と話される橋本先生に、これからの岡崎の緩和ケアを担ってくださる頼もしい方と感じられた交流会でした。途中、サンドイッチの軽食を挟み、久々にお会いする方と和気あいあいと話が弾み盛況のうちに終わりました。

（永谷美雪）



【感想】

- ・いつも大変お世話になりありがとうございます。本日は会員の方々と直接お話をする機会を頂き思いに触れることが出来ました。愛知病院も移管に伴って様々な仮題もありますが、今後もこの地域で必要とされるホスピス緩和ケアをきちんと継続できるよう頑張りたいと思います。今後ともよろしく願います。（橋本敦）
- ・緩和ケアについて色々考えさせられる内容でした。「愛知病院」「市民病院」似て否なもの？超高齢化社会に向けて「市民病院」にも緩和ケア病棟を作ってもらいたいと強く思いました。（愛知病院の精神を受け継いで）
橋詰さま永い間ご苦労さまでした。そしてこれからもずーっと宜しくご指導ください。
- ・先生のほんとうに穏やかなお人柄に接しこんな先生が側にいてくださったら安心できると感じました。新しい代表副代表の想いが伝わり私たちもこの会を大切にしたいと思いました。
- ・若い柴田さんがよく代表を引き受けてくださったと感謝しています。
- ・新しい代表も決まり今後も素晴らしい会になると思います。
- ・ありがとうございました。またこの一年間勉強させていただきます。高齢者になりましたが、地域のお手伝いなどをしています。ホスピスの勉強会にも参加させていただきます。
- ・初めて総会に参加して橋本先生や参加された方たちの色々なお話を聴けてとても有意義な時間でした。日々生活しているといろいろな事がありますが一日一日を規則正しく丁寧に生きていきたいと感じさせてくれる時間になりました。
- ・傘寿を迎えました。高校同期会の幹事5人のうちひとりが肺がんで半年の闘病で逝去、ひとりは膵臓がん、ひとりは大腸がん、ひとりは卵巣がんのステージ4、もうひとりは脳梗塞。5分の4が深刻で機能不全です。二人にひとりががんになる時代、ホスピスケアから一歩踏み込んで尊厳死とか安楽死を考えてもいい時代に入っているのではないのでしょうか。
- ・橋本先生のお話を伺ってなるべき方が緩和ケアの先生になられたと感じました。穏やかな橋本先生は素敵だと思いました。一人でも多くの緩和を理解した先生が育つと良いと思います。
- ・今回も皆さまのお話をお伺いしてとても勉強になりました。これからの言動に参加させていただきます。橋本先生のお話は初めてでしたが、このような穏やかな対応の先生に看取りをして頂ければ幸いです。
- ・この会の雰囲気大好きです。皆さんの顔を見るとほっとするし、言いたい事も気軽に話せ、みんなが一生懸命に聞いてくださいます。橋詰さん今までほんとうにありがとうございました。
- ・私のがんになったらどう考えれば良いのか？ゆっくり自分の考えを持ちたい。身内にがん患者が今でたら心に余裕を持って事ができるにはどうすれば良いのかを考えます。（主人と話をするのですが、具体的になると進まないです）
- ・新たなスタートを迎える4月にホスピスケアを考える会の総会が移ったことは心の切り替えもできる時だと思っています。今のところお陰様で病気とは無縁で過ごしておりますが、橋本先生の優しく静かな語り方にいやされました。
- ・この会に出席すると改めて良い人生だったねと言えるように今を大切に生きようと思います。
- ・全員が話すことができ心の中にあるものを少しでも出せることができたのではないかと思います。
- ・皆さんからがんに対する思いや胸の内にある思い等聞けて、私自身も考える力をもらいました。死に対して、また病んだ時、家族、周りの方への思い等もう少ししっかり早いうちに伝えておくべきだと思いました。
- ・患者さんが「どう生きたいか」「何を選択したいのか」「困っていることは何か」を傾聴によって寄り添われている先生の姿は素敵だなと思いました。「もしばなゲーム」やってみたいと思いました。

- ・いろいろな方の体験が聞けて良かったし先生のお話も大変参考になりました。今後もこの会につかず離れず、でいたいと思います。
- ・先生のお話を伺うことが出来てこれから自分がすること、自分で選ぶことを考えていきたいと思いました。そして選ぶ理由も大切な人には伝えていきたいと思います。
- ・「どう生きたいか、何をしてもらえるのか」患者と医師の話し合いで大切な点だと思います。これは患者でなくても日々の生活（家族）の中でも考え、思いやる点でもあります。「お大切に」「仲良く」忘れないように生きたいです。
- ・5年後？緩和ケア病棟が市民病院内に移るとなると現在愛知病院にある地域緩和ケアセンターはどう活用されるのでしょうか。患者さんにとってもボランティアにとっても癒される空間です。決して無駄にしない方法を取って頂きたいものです。
- ・先生の「命だけではなく人生にも関わらせて頂く、その中で喜び苦しみがあります」のお言葉が心に残りました。ボランティアをしていく中でも、ほんのひと時を関わらせて頂く大切な時と改めて身の引き締まる思いで携わっていききたいです。

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院・施設へ雑巾や依頼された品を作り届ける。
・5月7月 月曜日 10:00～12:00 愛知病院地域緩和ケアセンター・各自宅

20年間続けてきた手縫いで雑巾を作る会ですが、世の中の変化と共にお掃除の方法も変わり、今年度からはどのように活動したらいいのか、みんなで考えているところです。一針一針手で縫った雑巾は柔らかくてやっぱりいいです。ミシン作業・清拭布はこれまで通りですので、
よろしく願い致します。（勝川俊子）



緩和ケア病棟ボランティアの報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏
毎週金曜日 1:30～4:30 愛知病院緩和ケア病棟
アロママッサージ 毎週火曜日 13:30～15:30 練習日 第4金曜日 11:30



市民病院との統合のため。ボランティアは3月14日で一旦お休みとなり、4月19日から再開となりました。今後はコーディネーターも加わり楽器演奏の方々、患者さん、ご家族が穏やかに優しいひとときを過ごせるようにボランティアができればと思います。（神尾弘美）

“つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり
第3木曜日 10:00～12:00 ※福祉会館（年間計画表をご覧ください）

毎月集まる「つどい」の顔ぶれは皆の顔が揃うと、どこかに安定感があります。久しぶりの顔をみると嬉しくなったり、初めてのお顔も感激します。「つどい」まで足を運んで、重たい気持ちを吐き出して軽くなる気持ち、聴く側は打ち明けてくださったという有難さを感じます。でも打ち明けないで聴き役のまま旅立つ人色々な話をしあっていたのに突然に旅立たれた人もいます。別れの挨拶もできず、別れが来るとも思わずにいたあの頃も大切な「つどい」の時間でした。
※場所が福祉会館に変更します。（縄田昌子）

◆2019年度が始まりました。振込用紙を同封させていただきました。宜しくお願いします。

◆ご寄付ありがとうございました。匿名希望さま

ごあいさつ

20年間温かく見守っていただきありがとうございました。



アスファルトの割れ目から咲く小さな花の力強さと美しさに魅了されています。（橋詰清子）